

記事を読んで、問いに答えなさい。

2020年 10月14日朝刊中部版

フジバカマに止まるアサギマダラ 島田市川根町家山



“旅するチョウ”飛来

長距離を移動することから“旅するチョウ”と呼ばれるアサギマダラが、大井川鉄道家山駅（島田市川根町家山）付近に飛来した。秋の七草の一つ「フジバカマ」の蜜を求め、ひらひらと舞う姿が住民たちを喜ばせている。

川根地区の観光ボランティア組織「川根おもてなし人クラブ」（森下文子会長）と大鉄社員や沿線住民でつくる「大井川流域

島田・川根町にアサギマダラ

を花で満たす会」が今年3月、同駅の線路脇に花壇を作り、フジバカマを植栽した。9月中旬に開花を迎え、10月に入り、花の周りを飛び回る姿が確認された。黒と焦げ茶色に縁取られたあざぎ色（淡い水色）の羽を持つアサギマダラは春に北上し、秋に南下する習性を持つ。森下さんによると、11月中旬まで楽しめようという。

※解答欄が足りない場合は裏面に記すこと。

①アサギマダラのオスは生殖活動の活性化のために、毒性の強いピロリジジナルカロイド（PA）が含まれているフジバカマに止まる姿が見られる。このような習性はなんと呼ばれるか？ また、アサギマダラは味覚的にも嗅覚的にも、ピロリジジナルカロイドに誘因性を示さないのに、どのようにして存在を感知できるのか、高校生の自由な発想で考察せよ。但し、論拠を明確にすること。

()

②アサギマダラは、和歌山県から香港まで移動した例が現在の最長距離とされているが、どのような方法で測定したか、名称と注意点を挙げよ。また、秋に南下する時は、強い偏西風に逆らうことになるが逆風をどのようにして克服するのか、考察せよ。

()

③アサギマダラの名称の理由となった「アサギ」がどの部分かを確認せよ。その上で、「アサギ」の漢字・語源・故実などを調べて確認せよ。

()

年 組 名前

作問者：NIEアドバイザー 実石克巳（静岡高校 教諭）

（高校／国語）

<参考>①＝化学、生物学に関する問題、②＝生物学 昆虫学に関する問題、③＝日本文学 漢文学に関する問題